

☆☆図書室だより☆☆ ☆第49号☆

☆☆- 図書委員会よりお知らせ - ☆



気候も世間情勢も更に厳しい夏、平和聖日を迎え、おすすめしたい本と併せて新しく入った本の紹介をさせていただきます。

「イザヤ書を読もう 上 ここに私がおります」

大島 力 著 日本キリスト教団出版局〔黄 193.41 O 1〕

阿佐ヶ谷教会と関係の深い大島力先生は青山学院を定年で退かれてご夫妻共々再び阿佐ヶ谷教会の主日礼拝にご出席くださいました。その中で2024年9月に本書が出版されました。結果的に12月に召される直前となりました。

大島先生は左近淑先生から薫陶を受けられ神学生時代から旧約聖書、特にイザヤ書の研究に生涯を注がれました。イザヤ書に関してはこれまでもVTJシリーズ(日本人研究者による注解)でイザヤ書1-12章までの注解を出しておられましたが、一般の信徒またクリスチャンでない人にも旧約預言書にどのような思想や真理が語られているかを伝えたいとの情熱をもっておられました。本書にそのことが深く示されています。またこの6月にイザヤ書40章から66章を採り上げた『同下巻 慰めよ、私の民を』が続けて出版されました。こちらも併せて阿佐ヶ谷教会の皆さんとじっくり読みたいと願っています。

(阿佐ヶ谷教会 主任牧師 古屋治雄)



「神と民の契約 出エジプト記19~40章・十戒による説教

松本敏之 著 キリスト新聞社〔緑 198.34 Ma〕

本書は、松本敏之先生の連続講解による説教集です。葦の海の奇跡など出エジプト記の前半は含まれず、神様とその民との契約を24回に渡って解き明かします。今回はその中から「金の子牛」の章を紹介いたします。

モーセがシナイ山に登って神様から十戒を授かっていた頃、麓で40日間待たされた民は不安に陥り、モーセの兄弟アロンに「私たちが導く神々を作ってください」と詰め寄ります。アロンは民から集めた金の宝飾を鋳溶かして子牛の像を作り、民はそれを崇めます。松本先生は行為について「宗教そのものが不従順の手段になりうる」と指摘し、教会も同じ過ちを犯す危険があることに警鐘を鳴らします。

神様は金の子牛を崇める民を滅ぼす決意をしますが、モーセは民をとりなします。しかしモーセも民の犯した罪の贖いまではできません。松本先生は、罪の贖いは十字架のイエス様を待たねばならないことを解き明かします。

(M.U 神学生)



《ご寄贈書》	書名	著者名・出版社・発行年など	
	イザヤ書を読もう 下 慰めよ、私の民を	大島力 著 日本キリスト教団出版局	2025.6.25 [黄 193.41 O 2]
	神と民の契約 出エジプト記19～40章・十戒による説教	松本敏之 著 キリスト新聞社	2025.4.30 [緑 198.34 Ma]
	かさをささないシランさん	谷川俊太郎 アムネスティ・インターナショナル 作 いせひでこ 絵 理論社	1997.6 [黒 726.5 Ta]
	神僭に在して九十年 「とも子」の生涯の思い出	古畑とも子 著 三省堂書店/ 創英社	2024.12.1 [青 198.34 Fu]
	聖書から説教へ	日本基督教団出版局 編集 日本基督教団出版局	1992.10.22 [橙 193.09 Ni]
	率直にきこう あなたはなぜ神など信ずるか	泉秀樹 加藤宗哉 他 著 女子六甲会	1983.10.20 [赤 190.4 I]
《購入書》	書名		
	祈りのこころ	ピーター・テイラー・フォーサイス 著 大宮溥 訳 一麦出版社	2012.6.20 [茶 198.54 Fo]
	フォーサイス 人と思想シリーズ	大宮溥 著 日本基督教団出版局	1965.4.10 [赤 192.08 O]
	十字架の決定性	P.T.フォーサイス 著 斎藤剛毅 大宮溥 訳 ヨルダン社	1989.1.20 [赤 191.2 Sa]
	日本におけるフォーサイス受容の研究	神学の現代的課題の探究 川上直哉 著 キリスト新聞社	2012.2.24 [茶 198.54 Ka]
	聖なる父	コロナ時代の死と葬儀 P.T.フォーサイス 著 川上直哉 訳 ヨベル	2020.9.11 [茶 198.54 Fo]
	活けるキリスト『活けるキリスト』の現代的意味	P.T.フォーサイス 著 川上直哉 訳 ヨベル	2022.4.25 [茶 198.54 Fo]

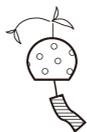
「真珠湾攻撃総隊長の回想 淵田美津雄自叙伝」

中田整一 編 解説 講談社



淵田は、真珠湾攻撃、降伏調印式、マッカーサー出迎え、東京裁判に関わった。本書は軍人の証言書であり、彼の基督教信仰、回心の記録である。彼は、ユタ州の捕虜収容所から帰国した傷病兵から、親身に世話をしてくれた若い女性ボランティアの話を知る。両親が日本兵に殺されたにも関わらず奉仕する話に驚愕する。彼女は関東学院チャプレンのコヴェル宣教師夫妻のご長女であった。夫妻は、フィリピン滞在中、スパイ容疑でその場で両手を縛られ、目隠しをされ、処刑直前まで、二人が熱い祈りをささげていた。彼女は、両親の祈りを思う時、憎い日本人に対してこそ宣教すると語った。淵田は、宣教師夫妻の祈りを考え始める。聖書を読み始める。十字架上の主の祈り「この人たちは、何をしているのか、分からないのです。」に至る。ユダヤ人やローマ兵へのとりなしの祈りと考えていたが、その祈りの中に自分もいると気づく。彼は受洗後、全米を200回宣教する稀有な人となった。

(H.Y. 信友会 図書委員)



「医学と福音」 [2018年1月号No. 1 ~ 2019年11・12月号合併号No.10]

日本キリスト者医科連盟 (JCMA) 発行

医療に携わるキリスト者の方々の投稿冊子過去2年間分が寄贈されました。各特集のうち、「民主主義と平和—沖縄を考える」(2019-No.7-8)では、沖縄の医療の発展に、現地と本土、世界各地のキリスト者の働きがあったこと、特にハンセン病に関して犀川一夫先生チームの信仰によるご尽力が大きく、「…日本のらいを病む人々の人間回復が沖縄から始められた…」と、ハンセン病の在宅医療を守られたことなど、今更ながら、大きな学びになりました。(No.7 P.23 No.8 P.27)

私たちが日頃受けている医療が「…神様から覚えられている…」(No.8 P.28)と感謝できます。

各号薄い冊子で身近なテーマが多いので、ファイルから外してお借りください。新刊号の取り寄せは検討中です。

(Ri シオン会 図書委員)